

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、職員全員で理念を作成しホール内に掲げているが、全員が分かっているかは定かではない。	○  職員の入れ替えがあり、全員への周知が不十分なため、さお度伝達する必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意味を理解し、それをもとにサービスを提供するよう日々努めているつもりであるが忘れる時がある。管理者の「あせらず、ゆっくり」という声掛けで思い出す。	○  地域との関わりをもう一步進める方向へ持っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示している。しかし、積極的な取り組みはしていない。閉鎖的にしているわけではないが、回覧板も回ってこない時もあり、隣家までの距離がありすぎる。	○  民生委員・小学生に来訪していただき、施設の行事に参加をしてもらう。家族がホームに宿泊できる環境作りも考えていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえるような菅家は出来ていないが、納涼祭では地域の方を招待したり、町内会主催の花見会に参加をしている。地域の高齢者の暮らしに役立つ話し合いには参加していないが、要請があれば参加をしたい。地域の老人がどのような活動をしているのか内容を把握していない。	○  地域の老人の活動を知りたいと思う。また、ボランティアというものがあるのか、浪岡の会議で、社協にい依頼し話をして頂くよう考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組んでいる。評価後の具体的な改善策は打ち出していないが、向上のための施設内研修等を行っている。	○ 施設内研修・ユニット会議でスキルアップに努めている。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員・地域包括支援センターの参加により、サービス向上に活かしている。話し合いの内容については職員は、文章でしか把握していない。	○ ホーム側の思い、家族側の思いを気楽に話し合い相談できる。毎回でなくても、時には消防や地域民生委員の方にも参加をして頂きたいと思っている。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、事業所会議を開催しており、また会議以外でも相談できる環境にある。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修で学習し、勉強になった。実施に必要な方には活用をしている。	○ 再度、学習をする機会を設けたい。地域への周知という面では、機会があれば行いたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々に理科をし注意を払っている。しかし、具体的には学んでいないため、機会があれば学びたい。虐待と安全面との理解が不十分である。	○ 虐待と利用者への安全確保という面で勉強をしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に質問を受けたことがない。従って、説明に対し、納得していただいていると思っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者はスタッフに不満・苦情は話されるので、その都度話し合い解決をしている。また、面会時に家族に現状を説明し、本人の意見を聞いてもらうこともある。	○  外部より、ボランティアで話を十分に聴いてくれる方がいれば良いと思う。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に報告をしている。また、緊急時にはその都度、報告をしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、こちらから声掛けし気軽に話していただけるような雰囲気作りに努めている。直接、不満を表す家族もいるが、外部者が聞く場は設けておらず、投書箱の設置のみである。	○  短時間でよいので、管理者・看護師・介護職が話し合いをできる環境作りを今後ほしい。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議を行っている。また、日頃から意見などを職員同士で話し合っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間対応の体制をとっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へは十分な説明は行っていないが、異動の際には事前に引継ぎを行い、混乱を少なくするよう努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への機会は少ないが、計画的に参加し研修報告を提出している。	○	育成プログラムを作成していきたいと思う。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、他グループホームとの交換実習を行った。また地区の事業所会議に出席することにより、同業者との交流も幾分ある。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間・場所を確保し配慮をしている。ストレスについては個々に解消をしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員に勤務状況を把握するよう努め、休みの希望や変更を可能な範囲で受け入れている。	○	就業規則をいつでも見れる場所に置いているが、今後は、周知を図る取り組みを行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査を行い、話を聴く機会を設けている。入居後については、場合により入居者・家族と面談する時間を設け、入居者の意見を反映できるよう仲介している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なるべく多く面会に来てくれるよう、お願いをしたりしている。反面、本人から納得が得られているのか疑問を感じる方がいる。本人が家族を気遣い、その場は納得しているように見せていることがある。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支えあって一緒に生活することに心がけているが、一方的な立場になることが多い。	○ 入居者の暮らしをしっかりと把握する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族への利用者の情報を伝え、家族からも情報を得たり、アドバイスをもらうことがある。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が施設に気安いように、日頃より声を掛け、雰囲気作りに努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人・場所を把握していない部分がある。しかし、本人の希望する場所へは可能な限り、一緒に出掛けるようにしている。	○	アセスメントで知人のことや場所も聞いていく。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の人間関係を把握し、時には職員が間に入り、良い関係が築けるよう努力をしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後は関係が断ち切られていると思うが、家族からの年賀状が届いている。管理者からは、外部の相談者という立場で、いつでも出来ることはサポートすることを話している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時間や入浴時間、散歩等、本人の意向にできるだけ添えるよう努力をしている。また、個人の申し送りノートに記載し、スタッフ全員が把握できるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の資料を把握したり、家族から情報を収集するよう努めているが、親類・知人の情報は薄い。	○ 親類や友人も知る必要がある。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握し、できること・できないことも把握している。しかし、上手く活かされていない。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議で検討をしたり、日々の生活の中で把握するようにしている。また、家族へも面会時に意見を聞くようにしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて話し合いを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の生活リズム・気づき等を介護記録に残すようにしているが、記入漏れもある。	○	記録の充実化と介護計画の見直しに活かしているかを再考する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況・要望に応じ支援するよう心がけている。医療連携では、検査の説明等があるときは家族への同行を依頼し、柔軟に対応している。	○	地域のニーズも把握していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の手伝いや歌・踊りのボランティアはあるが支援不足を感じる。	○	警察・消防・民生委員への参加を呼びかけ、万が一への対応に備えられるよう、ネットワーク作りをしていきたい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理容の訪問サービスを行っている。月1回行われる事業所会議から情報を得て、該当するサービス等は家族へお知らせしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター、市職員の方も理解があるため、運営推進会議の時でも、話題となり相談できる環境にある。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力しながら、今までと同様の医療機関を受診できるよう支援している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医がおり、状況・状態を報告し、指示やアドバイスを受けている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がおり、相談しながら、日常の健康管理を行っている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院とホームの看護師・管理者が情報交換・相談に努めている。しかし、医療機関に考え方もある。	○	医療機関がグループホームを理解していない部分がある。今後、ターミナルケアについて説明をする必要がある。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事例はないが、今後実施する方向で考えている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設外の研修に参加をし、それを職員へ報告を行い、取組んでいく姿勢を職員に明確にしている。	○	重度化した時の、訪問診療できる医師との連携を検討中。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供を行い出来るだけ今までと大差が生じないよう努めている。また、慣れない不安を取り除くため、出来るだけ面会をして頂くよう家族に依頼をしている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日頃の会話や介護面でプライバシーを損なわないように気をつけている。</p>	<p>○</p> <p>声掛けでも受け止め方が異なるため今後も気をつけていく。</p>
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ゆっくりと一緒に考え、本人に決めていただけるよう、声掛けに努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後さらに積極的な場面を作りたい。</p>
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の状態や、ペースを大切にしているが、希望に沿った支援が出来ているか疑問を感じることはある。</p>	<p>○</p> <p>どの様に生活をしたいか、希望を取り、選択肢を増やしていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的な理容サービスがある。また、希望のある方は外部と一緒に出掛けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事は摂っていないが、テーブル拭きやお絞り畳、下膳等を一緒に行っている。献立は長路を工夫したり、代替をだし対応している。	○	入居者の声をもっと取り入れた献立作りと月1回程度の、スタッフも一緒に食事を摂りたい。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出した嗜好品を飲食するため、そのままの状況でだしていた。健康面での注意もあり、おやつは個々に楽しめる状況にない。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するようにし、事前誘導に心がけている。オムツ使用時もスタッフ同士相談をしたり、家族へも相談をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を取り入れているが、時間は施設側の都合である。拒否される方へは対応を工夫したり、職員を替え気分も変えられるよう対応をしている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態に応じ、日中の休息も取り入れている。寝付けないときは付き添いを行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除や食後のお盆拭き等、役割を持てるよう働きかけている。しかし、不十分である。	○	一人一人の生活歴を知り、できること・できないことを把握し、入居y差の笑顔が増え機能低下防止につながる働きかけを行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人に応じて所持したり、管理をしているが、ほとんどの方が預けており支払いも預かったお金から職員が対応している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時、買い物や出掛けている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたいところが自宅である場合もあり、聞くことを避けている面もある。	○	家族と共に外に出掛ける機会が少ない。共に過ごす時間の設定と働きかけをしたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望に応じている。正月には年賀状をだしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋でゆっくり過ごしていただけるよう、いすを準備している。また、親しみやすいよう心配りもおこなっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。ベット柵を使用している方がいるが、記録として残していない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、早朝は玄関に施錠をしているが、日中は利用者は自由に外へ出入りしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その状況によって、見やすい場所にスタッフが居るよう工夫をしたり、居室を訪室したりし目配りを行い、安全に留意している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲の危険のあるものや職員が管理している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルを作成し掲示したり、勉強会や救命救急の研修を行っている。	○	他の人のヒヤリハット報告書を見て気をつけようと思うことがある。今後も報告書の作成を続け事故防止の意識を持ち続けていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し掲示したり、勉強会や救命救急の研修を行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っているが、地域住民の協力は弱い。また、災害時に備えての物品の準備がなされていない。	○	地域住民の協力を得られるよう、働きかけたい。また、災害物品の準備もしたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族へは現状の状況を説明し、起こり得るリスク等についても話している。しかし、対応策には触れていない。	○	スタッフ間でリスク対応のための話し合いの場を積極的に持つ。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行うと共に異変に気づいたときは、看護師に相談をし必要な処置を行っている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をケース記録に貼り、薬が変更の際は記録や申し送りで職員に伝え症状観察に努めている。また、飲み忘れや誤薬がないよう名前や服薬日時を確認している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動によってスムーズに排便が出来るよう工夫をしている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施や声掛け・見守りを行っている。	○	口腔内の手入れ、必要性を理解しているかを確認し、場合により勉強会を行う。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水便量をチェックし、調理方法や形状等を工夫している。水分もいつでも摂れるように対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食膳の手洗いの励行やマニュアルの掲示及び学習会を行っている。また、スタッフ・利用者ともにインフルエンザの予防接種を行い、掃除はハイターを使用し感染予防に努めている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の使用後は消毒をし、食器洗浄機も使っている。食材については購入日を記入し管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物や花を飾り明るく入りやすいようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・室内の明るさは調節し、ホールには季節の花や利用者製作の絵等が飾られている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、そこでテレビを一緒に見たり、くつろげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたいすを持ち込んだり、位牌を持参し たり、手作りのもの飾ったりしているが、最小限の ものだけを持ってきている方もいる。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定時に温度・湿度のチェックをし調節をして いる。窓を開け換気をしたり、冬は乾燥に気をつけ バスタオルを濡らし湿度を保つようにしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりが設置されており、安全に 過ごせるよう工夫をしている。しかし、洗濯干し は入居者の方が自分で干せる高さではない。その ため、出来る方へは室内干しを部屋に準備をして いる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ネームプレートを掲示したり、のれんを下げ分か るように工夫をしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	建物の周りを散歩したり、ベンチに座り風景を楽し んだり、会話を楽しんだり、天気の良い日はベ ンチを利用してお茶を皆で飲んでる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ターミナルケアに力を入れたい。
- ・入居者一人一人の考え、個性を見つけ対応できるようにしている。また、ご家族とは面会を通じて、様子を伝え安心していただけるようにスタッフ皆で心掛けている。
- ・研修や施設内研修を通じて、一人一人に笑顔で接し、思いに近づくことが出来るように心掛けている。また日常生活の中では、特に事故防止に努めている。